

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 2月17日(金曜)午後3時現在

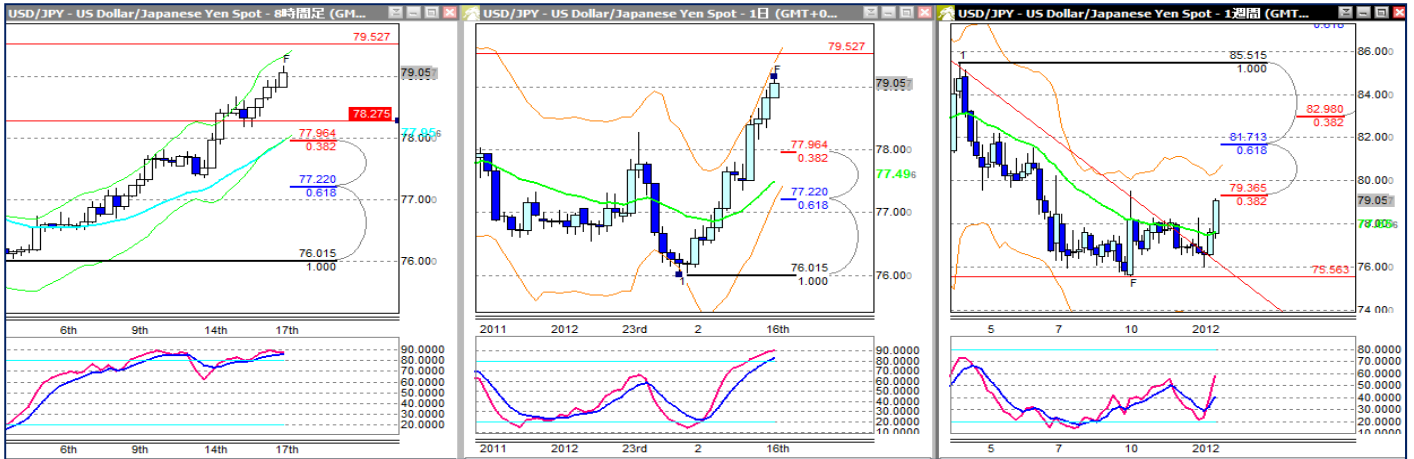
1. USDJPY 来週の予想レンジ 78.20~80.22 中期の予想 77.50~81.70

1. 2月14日を境に、円相場の動きに変化
2. ギリシャ第2次支援の行方に一時的な円高局面も考えられるが、クロスでは円安トレンドに入る
3. ユーロでもないドルでもない、円相場の動きに注目

USDJPY・8時間チャート

USDJPY・Daily チャート

USDJPY・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタン ス 1.	レジスタン ス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
USDJPY・8時間チャート	77.96	79.32	77.94	88.44	86.96	↓	78.28	77.96	79.32	79.53
USDJPY・Dailyチャート	77.50	79.38	77.19	90.97	83.21	↑	77.96	77.22	79.53	80.22
USDJPY・Weeklyチャート	77.66	80.36	73.26	58.06	40.83	↑	77.66	75.56	79.37	81.71

今週、月～木曜日までのレンジ、OPEN77.54→HI78.96→LW77.36→CLOSE78.92。

先週末も、主要通貨はギリシャを材料にして相場が動き、ドル高の流れとなっていたが、USDJPY だけは我が道を行く、77.51~77.80 の狭いレンジで終始した。今週も、ギリシャ問題もそれほど響かず、13日の予想を下回る GDP にも動きは鈍く、独自路線の狭いレンジ相場を思われていた。しかし、14日に日銀金融政策決定会合で「資産買入基金の10兆円増額」、「インフレ目標で1%を目指す方針」を発表、新たな円売り材料に市場は反応し、先に安住財務相が円売り介入終了点として議会で説明した78.20の壁を超え、16日には78.96まで上昇し、新たな円安ムードが高まった。また、円はAUDやNZD、CADなどの主要取引通貨に対しても円安の流れが強まった。

来週は、20日に予定している、ギリシャ第2次支援の可否が円相場にも影響を与えることは避けられないが、メイン・シナリオとして、円独自の理由からも、円安のトレンドに入る可能性があると考えている。14日に日銀が発表した予想外の資産買入基金の増額は、一つのきっかけとなったが、いままで続いている円売り材料でもある貿易収支の赤字化や、将来の格下げの可能性が残る円債への不安などが上げられる。

また、別の可能性を考えれば、不安定はEURとUSDを除き、他の主要通貨での円クロス動向は、今後のUSDJPY相場に影響を与える可能性が高く、過去の経験測から判断すると、一度方向転換した場合にはそのトレンドが長く継続する可能性も出ている。リスク・シナリオは、ギリシャのデフォルトで、EURUSDの下落にEURJPYが売られ、安全資産としてのJPY買いが強まり、USDJPYが77円を割り込むシナリオだが、その可能性は徐々に弱まりつつある。

8時間チャートは、EMAが77.96で、上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは売り買い交錯しながら、買われ過ぎゾーンにあり、短期的には調整売りが入りやすくなっている。下値のポイントは78.28、77.96。上値のポイントは79.32、79.53。

Dailyチャートは、EMAが77.50で、上昇トレンドを続けている。ストキャスティクスは買いを継続し、買われ過ぎゾーンに入り、調整売りの可能性も残るが、トレンドのある上昇相場の可能性も残る。下値のポイントは、77.96、77.22。上値のポイントは79.38、79.53。

Weeklyチャートは、EMAが77.66で、終値ベースでこれを上回り上昇トレンドにはいり、ストキャスティクスも買いへ変化している。下値のポイントは77.66、75.56。上値のポイントは79.37、81.71。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD)

2月17日(金曜)午後3時現在

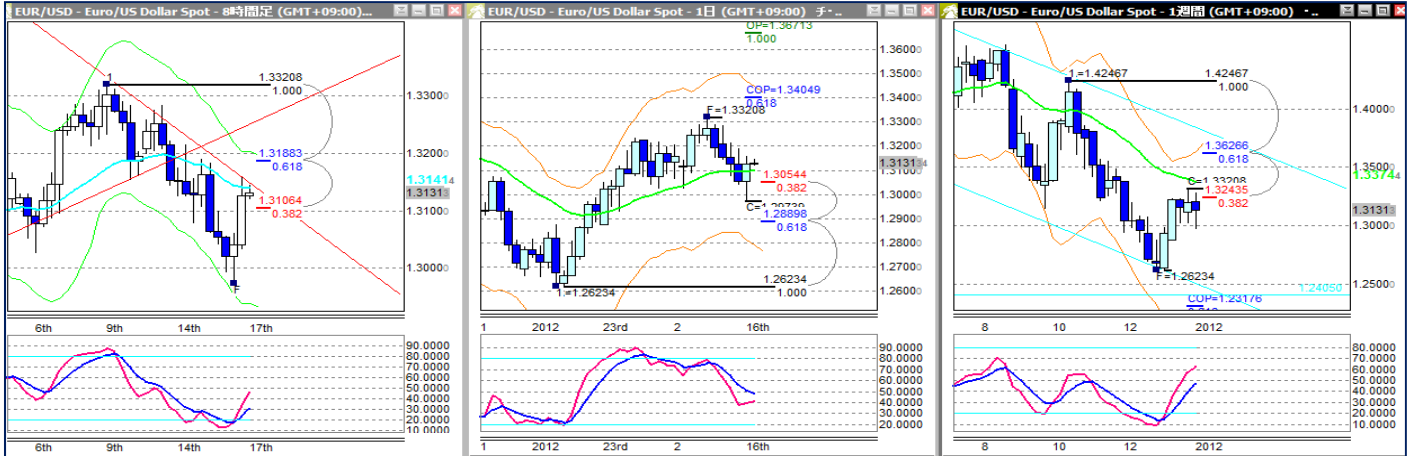
2. EURUSD 来週の予想レンジ 1.3050~1.3400 中期予想レンジ 1.2975~1.3630

1. ギリシャ第2次支援の合意待ち相場だが、悪材料にも反動が鈍い
2. 2月29日のLTROにも注意が必要
3. 週終値ベースで1.34台を超えると、新たなブル相場が始まる。

EURUSD・8時間チャート

EURUSD・Daily チャート

EURUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
EURUSD・8時間チャート	1.3141	1.3203	1.2939	46.24	30.92	↑	1.3106	1.2939	1.3188	1.3321
EURUSD・Dailyチャート	1.3101	1.3448	1.2792	41.83	47.76	↑	1.3054	1.2974	1.3321	1.3405
EURUSD・Weeklyチャート	1.3374	1.3636	1.2222	62.91	47.10	↑	1.2974	1.2623	1.3627	1.4247

今週、月～木曜日までのレンジ、OPEN1.3209→HI1.3283→LW1.3974→CLOSE1.3129。
先週末は、変動の激しい相場展開となり、ギリシャ連立与党 LAOS の党首が、議会承認に反対しユーロ安へ、ギリシャ閣議で財政緊縮策を承認、2月12日の議会採決待となった。今週は、週明けにギリシャ議会は財政緊縮策を承認し、15日のユーロ財務相会合が期待された。14日はムーディーズがユーロ圏6カ国の格下げと、EU9カ国のアウトルックをネガティブに変更したが、相場への影響は限定的となった。15日の財務相会合は20日の定例会議に延期され、15日の電話会議で対応策が協議されたが、ユーロ圏は一枚岩ではなく、内部の意見相違が報道される中で、ギリシャデフォルトリスクを意識しながら1.3974まで下落した。しかし、ギリシャは財務相会合が要求した合意の前提条件をなんとかクリアし、20日のユーロ圏財務相会合で合意の可能性がたまり、再び1.31台半ばまで値を戻した。

来週は、経済指標では、22日の製造業・サービス業 PMI、23日のIfo 景気動向、24日のGDPが予定されているが、週初めの20日に予定されているユーロ圏財務相会合がメイン・イベントであることに変わりない。20日にギリシャ第2次支援が本決まりとなるか、4月のギリシャ総選挙後になるのか、または、民間債権者のギリシャ債務交換だけの開始を決めるのか、その結果を見極めた後に、週後半の相場展開をあらためて予測する週になりそうである。

メイン・シナリオとしては、20日にギリシャ第2次支援の合意ができ、民間部門は債務交換を開始し、3月20日の145億ユーロの国債償還日に間に合い、ギリシャのデフォルトリスクが回避され、先の高値1.3320を超え、1.3620台まで上昇する可能性も出てくる。しかし、ギリシャはそれだけでなく緊縮財政の影響を受けて昨年第4四半期GDPは前年同月比で-7.0%と悪く、支援の合意により直ちにギリシャ経済が立ち直ることは難しく、緩やかな上昇にとどまりそうである。リスク・シナリオとしては、合意できず、デフォルトリスクの高まりに、1.28台、1.26台まで急落するシナリオだが、直近の情勢からその可能性は弱まっている。

8時間チャートは、EMA1.3141で、この水準を上限に上げ止まっているが、ストキャスティクスは買いに変化し、上値を試す動きが強まっている。下値のポイントは、1.3106、1.2939。上値のポイントは1.3321、1.3405。
Dailyチャートは、EMA1.3101で、この水準近くで取引がづづいている。ストキャスティクスは売りが続いているが弱いながらも買いへ変化する兆しがみられる。下値のポイントは1.3054、1.2974。上値のポイントは1.3321、1.3405。
Weeklyチャートは、EMA1.3374で、この水準を上限に上げ止まっているが、ストキャスティクスは買いを継続。EMAを上抜けすると上昇トレンドへ変化する可能性が高くなる。下値のポイントは1.2974、1.2623。上値のポイントは1.3627、1.4247。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 2月17日(金曜)午後3時現在

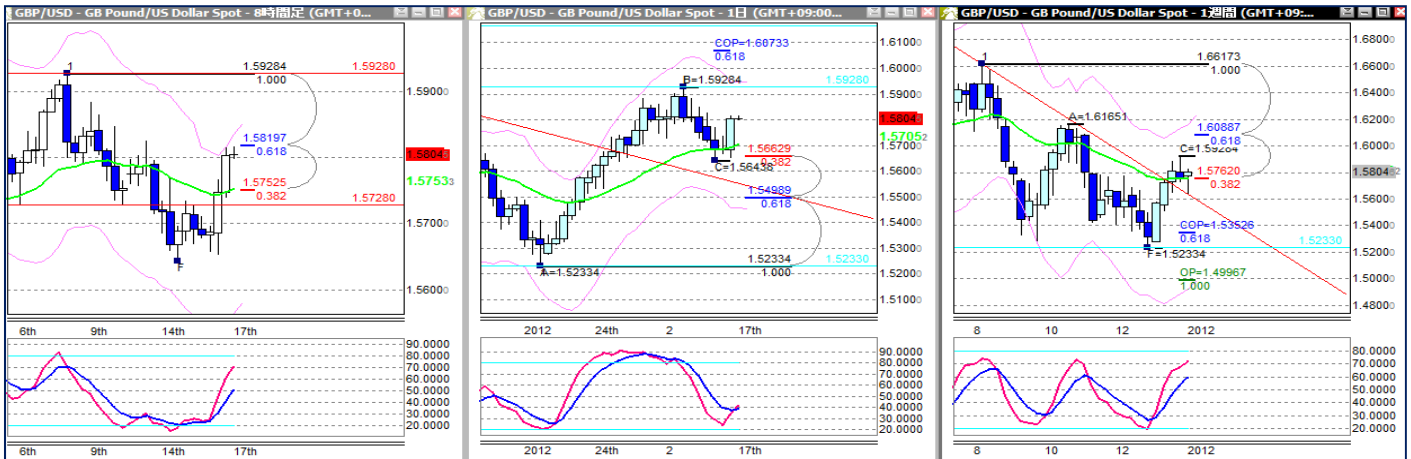
3. GBPUSD 来週の予想レンジ1.5500~1.5930 中期予想レンジ1.5600~1.6090

1. ギリシャ第2次支援の影響を強く受ける
2. 下げ基調も終わり、緩やかな上昇へ変化する可能性もある
3. EURGBPは最近のレンジ下限に位置し、買い戻しの影響を受ける可能性もある

GBPUSD・8時間チャート

GBPUSD・Daily チャート

GBPUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタ ンス 1.	レジスタ ンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
GBPUSD・8時間チャート	1.5753	1.5836	1.5564	71.49	51.24	↑	1.5752	1.5728	1.5820	1.5928
GBPUSD・Dailyチャート	1.5705	1.5947	1.5456	41.79	39.22	↑	1.5663	1.5499	1.5928	1.6073
GBPUSD・Weeklyチャート	1.5760	1.6164	1.4919	72.80	59.94	↑	1.5352	1.5233	1.6089	1.6617

今週、月～木曜日までのレンジ、OPEN1.5775→HI1.5826→LW1.5644→CLOSE1.5797。

先週末は、ギリシャ発の材料に1.5848→1.5729へと下落し1.5753で終了。今週もギリシャ第2次支援に関して相場が変動し、EURUSDの流れを追う展開と、さらに、金融政策など独自の材料でも動いていた。14日には英産業連盟(CBI)が英経済はリセッションの回避がされ、BOEは一段の量的緩和策を継続する必要がないと発表しGBP買いの材料となったが、キングBOE総裁が2012年までにインフレ率は目標の2%に低下すると発言、15日の英失業保険申請件数は、マイナス成長の影響で増加し、16日にはムーディーズが英国の「AAA」格付けの引き下げの可能性を示唆、GBP売り材料が多い中でEURGBPの売りに、一時1.58台まで上昇した。

来週は、経済指標では、22日にBOEの議事録の公表と、24日に第4四半期GDPの発表があり注目される。引き続き市場の焦点はギリシャ第2次支援に釘付けとなっているが、予想以上に堅調なEURUSDと、強い経済指標の発表にもドル買いの勢いは感じられず、底堅い展開が予想される。メイン・シナリオは、EURUSDに似てくるが、ギリシャ第2次支援が何らかの形で実施され、欧州債務危機が弱まるとの思惑に1.59台を試し、ブレイクすれば1.61近くまでの上昇する可能性も出てくる。

リスクシナリオとしては、ギリシャがデフォルトに陥ることで、最近ではデフォルトに対応する措置が多く取られているとのことで、デフォルトの影響も限られているとの発言も多くなっている。しかし、当初はドル買いに動きやすく、1.55を割り込み1.53割れを試す可能性も考えられるが、その可能性は弱まりつつある。

8時間チャートは、EMA1.5753で、この水準を下限に買いの流れが続き、ストキャスティクスも買いを継続し、1.5820を超えてくれば階の流れが加速。下値のポイントは1.5752、1.5728。上値のポイントは1.5820、1.5928。

Dailyチャートは、EMA1.5705で、この水準を下限に買いの流れとなり、ストキャスティクスは買いに変化している。下値のポイントは1.5663、1.5499。上値のポイントは1.5928、1.6073。

Weeklyチャートは、EMA1.5760で、今水準近くで取引が続き、週終値ベースではこの水準を下限にしている。ストキャスティクスは買いを継続。下値のポイントは1.5352、1.5233。上値のポイントは1.6089、1.6617。

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス。為替レート・金・原油価格は GFT 社の取引レート。
本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com、ロイター社、ブルームバーグ社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com、ブルームバーグ社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしめますが、損失ももたらしめます。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011